

# 連珠っておもしろい

## 九段 河村典彦

### ●第9回●

### 世界最高峰の連珠大会(2)

前回ご紹介した、世界最高峰のインターネットでの連珠サイト、オンライン・レンジュ・クラス (ORC) で先日また連珠大会が開催された。今回の特徴は、坂田吾朗さん提唱の「均衡打ち」が初めて採用されたことである。現在は、山口名人提案の「題数指定打ち」などがいろいろ模索されている。その背景には、現行ルールが行き詰まりになるだろう(と思われる)危機感がある。ここで、坂田ルールとはどんなものであるか確認しておこう。簡単に書く、

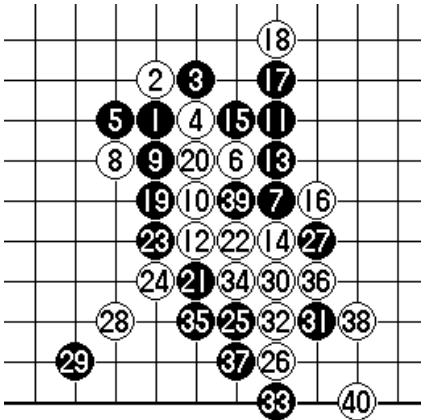
- ① 仮先が珠型を決める
- ② 仮後が白4と黒5を打つ
- ③ (黒5までの形を見て) 仮先が黒か白かを決める

というルールである。これ

だ。どんな珠型でも理論上打てるし、一気に作戦の幅が広がる。無限大と言ってもいいだろう。ただし、極端に言えば白4と黒5が盤端にあるような局面も発生する可能性があるのです。白4と黒5に何らかの制限が必要だろう。

さて、私と山口名人は当日は挑戦手合いだったので不参加だったが、終わってから覗いてみると面白い局をいくつか見ることができた。まずはこの局から。

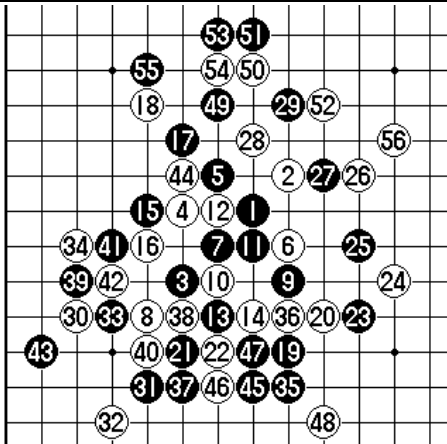
白40にて黒投了



(黒 Mordy: 白 dittp)

今回、浦月・花月も多く打たれたようだ。黒必勝の珠型も肝心の黒5を異着に打てば黒白互角に早替わりである。確かにこの5なら、白を持つても良さそうな気がする。こういう展開なら、異着の咎め方を多く知っている日本の古いプレーヤーの方が有利かも知れない。では、白必勝の珠型はどうかと言うと、次の局を見ていただこう。

白56にて黒投了

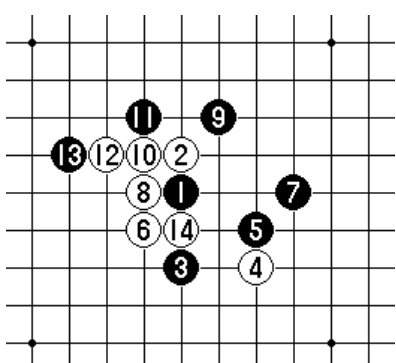


(黒 chinarenju: 白 CELIE)

彗星は白必勝なので普通に4を打ってしまつては互角ではなくなる。そこで、白4を弱める必要がある。白4はそういう意味でなるほどという手だが、黒5までどちらが有利なのかさっぱりわからない。とにかく、このルールでは黒5までの形を見てどちらが有利であるか正確に判断できることが最も重要であろう。

あとは普通の連珠の感覚がそのまま通用するので、案外実力どおりに決着がつきそうだ。

白14にて黒投了

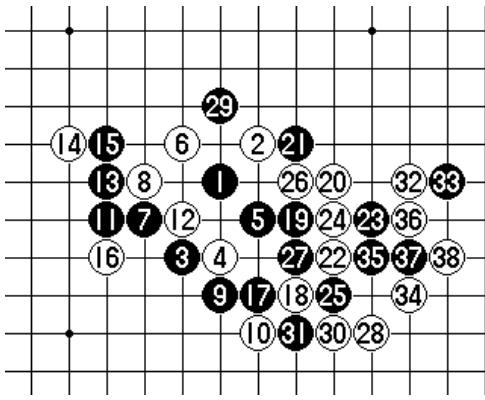


(黒 ggyy: 白 Ando)

これから先は、メリテイの棋譜を紹介しよう。

今回、瑞星や疎星があまり打たれなかったのも一つの成果だが、瑞星でも白4とトンデモない手が打たれるのが面白い。黒5までとても白が有望には見えないが、あつという間に勝ってしまったのは実力差か。

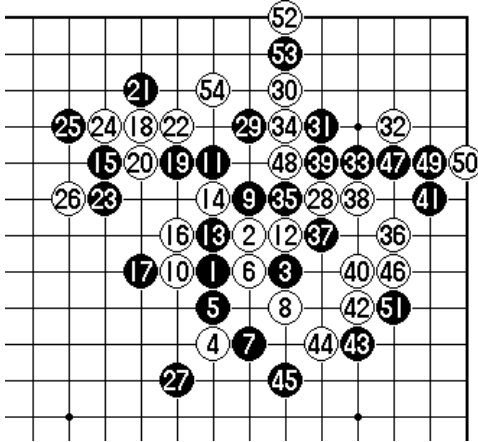
おなじみの名月でもとんでもない白4のお目見えだ。白38にて黒投了



(黒 Andry: 白 Ando)  
黒5まで良く見ると浦月

定石で黒5を変なところに入った形に戻っている。この形をどう判断するかが勝負だろう。今のところ、坂田ルールでは従来の形の類似型が基本となりそうで、そのあたりはマナー？が守られれば案外普及しやすいかも知れない。

白54にて黒投了

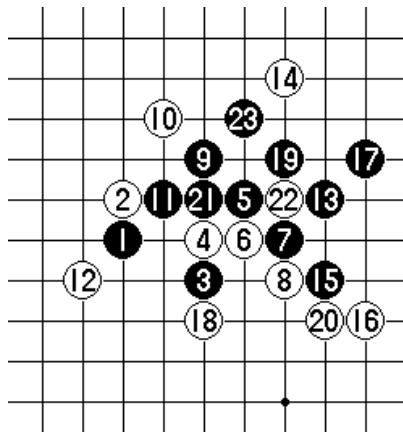


(黒 Cai Lijie: 白 Ando)

優勝争いの方は、この局を慎重に打って勝ったメリテイが6連勝で優勝をほぼ決めたと思われたが、最後

の最後で逆転を許してしまふ。何しろ持ち時間20分以下10手3分だから最後は指運といった局も多かったように思う。

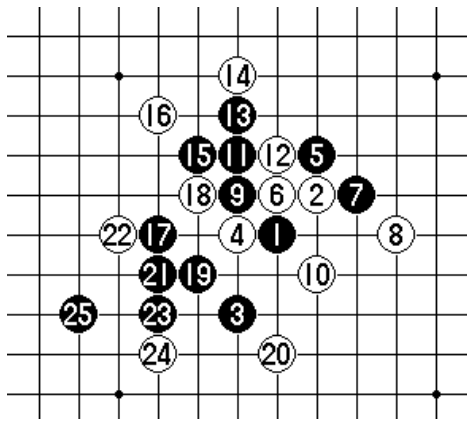
黒勝 SUPERK47 白 Ando  
黒23にて白投了



メリテイは前回もこの相手に敗れ優勝を逃している。(前号参照) 黒5まで互角のように見えたが、白8が弱かったのか、黒9から一気に勝勢を築かれた。これで両者が勝ち点6で並んだが、ポイント差で SUPERK47 が優勝し、メリテイはまた

も2位となった。3位にはおなじみの瑞典のカールソンが入ったが、彼らしい粘り強い打ち方で上位に食い込んだ。では、最後に優勝した SUPERK47 の譜をもう一局ご紹介しよう。

黒25にて白投了



(黒 SUPERK47: 白 yfcsd)

名月で黒7までなら若干黒が有利な感じがする。黒15、17あたりは普通の手筋で、彼は現行ルールでも充分強いであろう。